

陰うつな学問と忍耐

経済学部長 砂川良和

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。厳しい受験戦争を乗り越え、無事経済学部に入學されましたことを心からお祝い申し上げます。

さて皆さんは、経済学部を志望し、入學されましたので当然のことながら、これから経済学を学ばなければなりません。覚悟はよいかということ。こんなことをいわなければならないのも、これまでの私の経験からみて、経済学部を志望したこと、経済学を勉強したいということとは、必ずしも一致しないのではないかと思われるふしがあるからです。私の独断と偏見によりますと、経済学には興味も関心もないが、就職に際してまあ食いはぐれもあるまい、といった考えで経済学部を志望する者がかなりいるのではないかと思われるからです。もっとも就職の便宜を考えて学部を選ぶのが、いちがいに悪いというわけではありません。就職が人生の一大事であることもまた確かですから。まあ志望動機などというものは、私はどうでもよいと思います。ただ経済学部に入學した以上は、好むと好まざるとにかかわらず経済学のメニューが提供され、それを消化していかなければなりません。入學したからには、経済学がおもしろくないとか、講義がつまらんなどとはいってられないのです。そんなことをいうのは、まったくお門違いということになります。経済学をいかにおもしろく、かつ興味深く学ぶか、自分自身であらゆる努力をすることが大切です。本来、経済学は、ほんやり聞いておれば、ただそれだけでおもしろくてやめられないといったたぐいのものではあ

りません。その点が落語や漫才と違うところです。経済学は、どちらかというところつきにくい、ずいぶん忍耐を必要とする学問です。カーライルは、経済学を「陰うつな科学」とさえ呼んでいるほどです。とりわけ両親の格別なるひ護のもとで、また学校という閉鎖社会の中で何不自由なく暮らしてきた皆さん方にとって、経済学に関心を持つということは、まことに至難のわざといえましょう。経済学を勉強しようとする人は、まず新聞（スポーツ新聞にあらず）を丹念に読んだり、テレビのニュース番組をみて経済社会の動向に興味と関心を持つなど、いろいろ工夫し、それなりの努力を必要とするということです。また大学では、手とり足とりかゆいところに手の届くような形で教えることはいたしません。その意味ではきわめて不親切ということもできましょう。もちろん私も皆さんの経済学を学ぶ努力の手助けをいとうものではありません。しかし何よりもまず皆さん方自身で積極的に経済学を学ぼうとする姿勢を示すことが大切です。経済学の勉強を志し、経済学部を選択したのは、皆さん方自身ですから。むずかしいことばかりいいましたが、大学には、学問だけでなく、教官、友人など多くの人間関係が存在します。大学で生涯の友、生涯の伴侶を得たという話はいくらでもあります。こういった多くの人間関係が皆さん方の人生をより豊かなものにしてくれることと思います。大学生活を大いにエンジョイして、自らの楽園として下さい。